

令和元年度 くれワンダーランド構想推進会議

ワクワク・イキイキした活動が広がる仕組みの提案

【目次】	ページ
～ はじめに ～	1
「くれワンダーランド構想」の推進に当たって	1
1 観光振興	
（1）市民の観光への意識醸成	2
（2）SNSを活用した情報発信	3
2 創業支援	
（1）創業・起業のための支援策を取りまとめたポータル サイトの作成	4
（2）創業支援を行うプラットフォーム	5
3 公共空間の利活用	
（1）公共空間の利活用手続きの情報発信	6
（2）実証実験を踏まえた公共空間の利活用事例の発信	7
4 オープンデータ利活用	
（1）ICT人材によるネットワークづくり	8
5 大学、研究機関等との更なる連携、誘致等	
（1）呉市に必要な学びの場のニーズ調査	9
（2）広島大学呉サテライトの更なる活用	10

「くれワンダーランド構想」の推進に当たって

くれワンダーランド構想は、これまでのように、市役所だけが主導して、予算や計画を組んで事業執行していくものではありません。

むしろ、市民の方々や民間企業等において、これまでにない新しい視点や大胆な発想で、自主的・主体的に取り組まれているワクワク・イキイキする活動が、呉市全体に広がっていくことを目指しています。

災害復興との関係性

豪雨災害からの本当の意味での復興に向けて、「くれワンダーランド構想」を進めていくことが、非常に重要です。

- 現在、市役所がなすべき最も大事なことは、被災された方々が一日も早く日常を取り戻し、安心できる、安全な、そして、これまで以上に幸せを感じる都市として、呉のまちを復活・再生させていく「豪雨災害からの着実で力強い復興」を実現することです。
- 更に、本当の意味での復興、街の再生を進めるためには、復興の実現と同時に、以前にも増して、女性や若者が今後も住み続けたい、外からも訪れてみたいと思えるような、これまで以上の魅力的なまちづくりが必要となります。
- そのために、市役所だけでなく、市民の方々や民間企業等を含めた市全体で、新たな呉市への進化を目指す「くれワンダーランド構想」を進めていくことが、非常に重要と考えています。

推進の方向性

くれワンダーランド構想推進会議は、何か計画を策定するのではなく、次のようなワクワク・イキイキする活動が呉市全体に広がっていくための仕組みを念頭に、幅広く意見や提案を交換していくものです。

また、新型コロナウイルスの感染拡大は社会や企業のあり方を大きく変えることから、国が提案する「新しい生活様式」を踏まえた上での新しい挑戦的な取組を提案・推進していく必要があります。

＜ 広がる仕組み 例1 ＞

現在、芽生えつつある、市民の方々や民間企業等のワクワク・イキイキする活動を呉市全体に広げていくため、呉市役所や関係協力機関において、これらの活動に関する情報を積極的に収集し、発信する。

＜ 広がる仕組み 例2 ＞

産・学・官・金・医など各分野の団体の連携を深めるためのネットワークづくりや、公共空間の使用規制の緩和、使用方法の周知など、市民の方々や民間企業等の創意工夫を活かせる環境づくりを進める。

1 観光振興

ワクワク・イキイキした活動が広がる仕組み

(1) 市民の観光への意識醸成

【目的】

呉市にある多くの観光資源を活かすためには、官民ともに呉市の観光の方向性について、共通認識を持つ必要がある。

市民・事業者・行政が連携して観光に対する意識の醸成を図るとともに、官民が実施している事業や、すぐに行える新たな観光事業について意見交換を行った。

官民が実施している取組事例

▶民間主体イベント

「とびしまウルトラマラニック（イベント民泊も実施）」
とびしま海道の島々を巡るピクニック感覚の 100km マラソン大会
開催日：12月8日(日) 参加者：429人

▶市と民間の共同イベント

「復興応援 呉ご当地キャラ祭」
呉氏の仲間が一堂に会し、呉のまちが復興に向かって
いることを全国に向けてPR
開催日：5月11日(土)、12日(日) 来場者：計32,000人

▶市主体イベント

「呉復興リレーイベント 呉元気ワクワクフェスティバル」
西日本豪雨災害からの復興に向けて、各地区をつなぎ、地域の賑わいを取り戻すイベント等を実施
開催日：11月3日 川尻町（1,000人）→1月26日 蒲刈町（1,100人）
→2月16日 倉橋町（5,000人）→2月23日 安浦町（5,000人）
→2月29日 音戸町 →3月14・15日 天応地区（※音戸・天応は新型コロナウイルスの影響により中止）

すぐに行える新たな観光事業の提案

▶ワーキンググループにおける主な意見

- ・観光客への挨拶運動（手振り等）を呉市全体で実施してはどうか。
- ・取組のきっかけ作りとして、まず、観光関連事業者に手振り運動を行ってもらってはどうか。
- ・手振り運動の模様を、SNSで情報発信し、反響を見るべきだと思う。

▶取組状況

すぐに行える新たな観光事業として、観光客への「手振り運動」の実施を提案。
呉に来てよかったと観光客へ感じてもらえるよう、観光客への「手振り運動」を行う団体（事業者）を呉市フェイスブックで募集し、応募団体の活動の様子を紹介した。

ワクワク・イキイキした活動が広がる仕組み



フェイスブックで
募集・紹介



おんど観光文化会館 うずしお



クレイトンベイホテル



グリーンピアせとうち

(2) SNSを活用した情報発信

【目的】

近年、SNSにより観光情報を得ている人も多く、呉市としてもSNSを積極的に活用した情報発信に努める必要がある。

市民、民間事業者の方々や観光に訪れた方々が、自らが発信していける取組等について意見交換を行った。

▶ハッシュタグ#を活用した情報発信

インスタグラムに市民・観光客から投稿してもらうことにより、観光地「呉」を全国にPRし、観光客誘致を図ることを目的に実施。

令和元年度は、「#フォトジェニックレ」「#日本遺産のまち呉」「#呉鎮守府130」を使って投稿してもらっている。

▶「日本遺産のまち呉」インスタグラムフォトコンテスト

令和元年度は、呉鎮守府開庁130周年の節目の年であるため、インスタグラムを活用し、「日本遺産のまち呉」のフォトジェニックな一面をテーマとしたコンテストを実施。呉の魅力を発信する部門と日本遺産の魅力を発信する部門で募集した。

応募総数：576件

「#フォトジェニックレ」 512件

「#呉の日本遺産」 148件

(全てのハッシュタグを付けた作品は重複カウント)

【今後について】

世界の産業構造の変化をみると、観光は今後の呉の基幹産業になることが期待される。

観光客数が増えても日帰りするだけでは、地域経済にもたらすメリットは限定的であることから、観光客が真に満足して、長期かつ繰り返し宿泊し、そのお金が市内で循環していく仕組みづくりが必要である。

呉市においては、市民・事業者・行政が一体となって観光を推進できる新たな体制の構築や、指針となる観光振興計画の策定、人材育成などを進めるとともに、市民の意識醸成及び情報発信の在り方についても引き続き検討していく。

2 創業支援

ワクワク・イキイキした活動が広がる仕組み

(1) 創業・起業のための支援策を取りまとめたポータルサイトの作成

【目的】

市内での創業・起業を支援するため、次の支援機関が実施している創業前から事業発展時までの段階的な支援メニューを取りまとめ、創業・起業したい方々へ支援策を分かりやすく情報を取得してもらうことを目的に、ポータルサイトを構築する。

支援機関

- ・ 呉信用金庫（呉創業支援ネットワーク）
- ・ 呉商工会議所（呉地域中小企業支援センター）
- ・ (公財) くれ産業振興センター
- ・ 呉広域商工会
- ・ (公財) ひろしま産業振興機構（ひろしま創業サポートセンター）

【運営方法】

各支援機関を交えた意見交換を行い、運営方法などの方針について検討を行った。

- ▶ 各支援機関それぞれが情報の更新等メンテナンスができるようにする。
- ▶ ポータルサイトの立ち上げ当初はアクセス数が限られることが想定されるため、無料で使用できるウェブサービスを活用し、アクセス数の伸長によりポータルサイトとして独立させることを検討する。
- ▶ 令和2年度に期間（6ヶ月程度）を決めて実証実験的に開設し、期間終了後アクセス数や内容等を検証した後、年度末の本格的なスタートを目指す。

【内容】

起業をするかどうか決めかねているモヤモヤしている方々についてもサポートできる仕組みが必要であるとの意見等からポータルサイトの内容について考察を行った。

- ▶ 支援区分の定義として、起業をするかどうか決めかねているモヤモヤしている人を、起業の前段階として「0（ゼロ）」段階と表記する。

<支援区分の定義>

- 0段階・・・起業をするかどうか決めかねている人
- 1段階・・・起業を決めた人
- 2段階・・・起業準備期
- 3段階・・・起業後一年経過時
- 4段階・・・起業後三年経過時以降

- ▶ 各支援機関の支援メニューを、創業の段階ごとに掲載するとともに、創業希望者からの質問等には、各支援機関が「オール呉」で協力して回答することとし、その内容等も掲載していく。

(2) 創業支援を行うプラットフォーム

【目的】

呉市、創業支援機関、金融機関等が「オール呉」としてポータルサイトの運営を含め、創業者をサポートする体制を整える。

【運営方法】

持続可能な運営を行う必要があるという意見を踏まえ、呉信用金庫が事務局を務める呉創業支援ネットワーク等、既存の枠組みを活用するとともに、効率的な運営が行えるようICTの活用を検討する。

【内容】

創業希望者をサポートする体制として必要な視点等について、支援機関を交え意見交換を行った。

- ▶ 創業希望者が欲しい情報（ニーズ）と支援機関が提供している情報とのマッチングが必要
- ▶ 女性や若者が気軽に相談できる場が必要
- ▶ 女性向けに行われている「くれ創業カフェ（呉創業支援ネットワーク主催）」は参加しやすかった。

以上の提案を踏まえ、創業希望者の発掘と、人材育成のため、支援区分0～1段階の人を対象とした女性創業セミナーや若手人材の育成とコミュニティづくりを推進するための一般向けセミナーを令和2年度に期間限定で実証実験的に実施し、その実績を検証することとした。

セミナー等はポータルサイトに掲載し情報発信を行うとともに、支援機関による無料相談も実施する。

女性向け創業支援セミナーの開催（案）

対象者	創業を検討している女性，創業間もない女性
主要関係機関	呉創業支援ネットワーク
募集人数	10人程度
期間	5か月
場所	女性先輩起業家の店舗等
講師	女性先輩起業家
情報発信	ホームページに掲載するとともに，女性が集まる場所（美容院，カフェ等）にチラシを設置する。

【今後について】

令和2年度に実証実験として、ポータルサイトの運営、創業支援セミナー等を行うこととし、その検証は、「呉市中小企業・小規模企業振興条例」に基づき設置している中小企業・小規模企業振興会議のワーキンググループとして、継続的にオール呉で創業支援をするためのプラットフォームの構築を目指す。

3 公共空間の利活用

ワクワク・イキイキした活動が広がる仕組み

(1) 公共空間の利活用手続の情報発信

【目的】

市民により活発に、かつ、適法に道路、公園などの公共空間を利活用していただくことにより、地域における賑わいの創出が期待できる。

しかし、道路等の公共空間は、本来公共の目的のために設置されたものであり、それらを別用途に利用する場合には規制があったり、手続を経ることが必要となる。これら規制や手続について、分かりやすく情報発信することで、利用者等の理解を深め、有効に活用できるようにする。

【ワーキンググループにおける主な意見】

- ▶ 過去に初めてイベントをやろうとしたときは大変だった。手続の情報発信は非常に重要である。
- ▶ どういったことをするとき市に許可が必要なのか分からない。分かりやすく説明してもらいたい。
- ▶ 手続の簡素化や情報発信が重要だ。

【今後について】

呉市のホームページに「公共空間の利活用に係る制度一覧」及び「公共空間の利活用Q&A」を掲載し、情報発信する。

公共空間の利活用に係る制度一覧

1 道路における許可制度

道路において食事施設を設置したり、イベントを開催する場合は、次の制度の活用が考えられます。いずれにおいても、公共性が認められるものであって、周辺の交通に支障を及ぼさないことが原則となります。

許可等の名称と概要	期間	取組例	その他の手続（一例）	メリット／デメリット
1 道路占用許可（イベントの許可） ・道路法第32条	短	・みなと祭り ・あさまち ・物販夜市	・道路使用許可（警察署） ・食品催し物届（保健所） ・火災予防関係の届出（消防署）	・手続が比較的簡易 ・期間が短期間であり、継続的な取組が困難

公共空間の利活用Q&A

Q 6 道路占用許可を受けたいのですが、手続に必要な書類は何ですか。

A 6 道路占用許可申請書、位置図、平面図、断面図、現地写真等がそれぞれ3部必要になります。市の関係部署の後援等の書類があれば、合わせて御提出ください。

呉みなと祭り



(2) 実証実験を踏まえた公共空間の利活用事例の発信

【目的】

魅力ある都市空間形成による賑わいの創出に向けて道路占用許可の可能性を探るため、中通2丁目の道路上での長期的なイベント実施など、道路における連続的又は長期的なイベントを試験的に実施し、課題を検証した。

来場者を対象としたアンケート調査結果 (259人)

- ▶ 公共空間利活用の取組について「楽しくて良い」など肯定的な意見が大半【複数回答可】
- ▶ 公共空間でのイベントへの参加について、参加したいという意見が99%。内容としては、オープンカフェや物販ブースを求める声が多い。【複数回答可】
- ▶ 一時的な道路等の通行規制などの制限については、「仕方ない」が45%、時々開催であれば問題ないとするのが48%。時間帯としては、「昼夜問わず問題ない」が62%と半数越え。

近隣住民を対象としたアンケート調査結果 (13人)

- ▶ 公共空間利活用の取組について「賑わいが生まれる」など全員が肯定的。【複数回答可】
- ▶ 一時的な道路等の通行規制などの制限については、全員が「イベントのときは仕方ない」。
- ▶ イベント実施時に困ることは、「特にない」が54%と半数越えだが、残りは道路などが汚れる、交通規制が困るとする意見。【複数回答可】

出店者を対象としたアンケート調査結果 (14人)

- ▶ 公共空間利活用の取組について「賑わいが生まれる」など全員が肯定的。【複数回答可】
- ▶ 出店したい内容は全員がオープンカフェを選択。次いで、物販ブースと休憩スペースがともに79%【複数回答可】
- ▶ 出店時に大変なことは、「必要な手続きがわかりにくい」が79%。「手続きに時間が掛かる」が50%と手続関係の意見が多い。次いで、イベントの周知方法が43%【複数回答可】

【検証結果】

- ▶ ある程度の公共性・公益性がある路上イベントについては、近隣の地域住民・団体等、交通管理者の同意が得られれば、長期的なイベントの実施も可能
- ▶ 道路交通に支障を及ぼす可能性がある場所の占用について、交通管理者との協議により交通規制を伴う場合には、必要最低限の安全対策を除き、条件の緩和が可能

【今後について】

呉市のホームページに、路上イベントの占用のガイドライン「道路空間を活用したイベント等の実施に伴う道路占用について」を掲載し、情報発信する。

4 オープンデータ利活用

ワクワク・イキイキした活動が広がる仕組み

(1) ICT人材によるネットワークづくり

【目的】

ICTには、1人がパソコン1台で始めた事業が大きな産業へと成長する可能性がある。

「ICTに取り組むなら、呉に行けば何とかなる」というようなまちを目指し、オープンデータやビッグデータ等の利活用を切り口に、産業の活性化、新産業の創出など、呉市の活性化に資する取組を検討していくには、まずは、呉市に関わりのあるICT人材によるネットワーク（コミュニティの形成）づくりが必要であると考え、現状や課題等について意見交換を行うこととした。

【現状と課題】

ICT事業者の方々と交えた意見交換から、次のことが明らかとなった。

- ▶ 市内の同業者と関わりを殆ど持たない状態である。
- ▶ 横のつながりが希薄である。
- ▶ 医療分野では、がん判定を行う際に補助的にAIによる判定を行っている。こうした取組が既に呉で行われていることが知られていない。

【考察結果】

呉市のICT人材が、気軽に参加し、様々な話ができる場が必要

(活動事例) CoderDojo呉からの広がり

- ▶ 子どもたちへのICT教育を支援する地域貢献活動を行っている「CoderDojo呉」という取組がある。こうした活動へICT人材の参加を促すとともに、終了後には、自らの取組や課題などを話し合うような交流の場を設けてはどうか。

ICT人材による支援



終了後

ICT人材の交流



つながりから生まれる新たな取組

【ワーキンググループにおける活動】

呉市のICT人材ネットワークづくりに協力していただける様々な分野の方々に参加してもらい、呉市におけるICT関連ビジネス等の現状と課題について、呉市役所のICTに関わりのある担当者等も交え、現況を共有する場を設けた。

【今後について】

呉市の活性化に協力いただけるICT人材の方々が、相互につながりを持ちながら、気軽に顔を合わせて様々な話ができるような、ゆるやかなコミュニティとして交流できるような場所の確保について、具体的に検討していく。

5 大学，研究機関等との更なる連携，誘致等

ワクワク・イキイキした活動が広がる仕組み

(1) 呉市に必要な学びの場のニーズ調査

【目的】

呉地域に大学研究機関等を誘致することにより，都市部へと流れる学生の流れを変え，地域づくりの起点となることが期待できる。

少子化が加速する中，持続可能な大学となるため，地域に求められ，また地域に貢献する大学像についてアンケート調査を基に考察を行った。

呉市内の高校三年生を対象とした定住志向に関するアンケート調査から (H27実施)

- ▶ 呉市を住みよいと感じている学生の割合は77%
- ▶ 進学を希望する地域として広島県内（呉市含む）を希望する学生の割合は64%

呉市内の高校に勤務する教職員への高校生の定住志向に関するアンケート調査から (R元実施)

- ▶ 学生に薦める学部 1位:工学系 2位:経済学系 3位:国際関係学系 4位:教育学系 5位:情報学系
- ▶ 呉にあったら良い学部 1位:工学系 2位:観光学系 3位:地域創生学系 4位:情報学系 5位:教育学系
- ▶ 進学を希望する地域として広島県内（呉市含む）を希望する学生の割合は50%

呉市内の企業への必要な人材に関するアンケート調査から (R元実施)

- ▶ 求める学部，学科の知識 1位:工学系 2位:商学系 3位:経済学系 4位:情報学系 5位:法学系
- ▶ 求める人物像は，「真面目，または誠実な人柄である」「コミュニケーション能力が高い」「意欲的である」「素直である」「明るい性格である」が多かった。
- ▶ 求めるスキルは，「詰める力（やりきる力）」「考え抜く力」「協業力」「チャレンジする力」「関係構築能力」が多かった。

【考察結果】

- ▶ 求められる学部は，県内外からも人が集まる魅力や特色を持ち，育成した人材を地域へ送り出すことができる学部
- ▶ 求められる教育環境は，働き方も多様化する中で，学生が成長機会を得られるもの（好きなことを突き詰めることができる），それをサポートできるもの，様々な刺激を得られるもの。このような環境が呉市にあれば良い。
- ▶ 多様な人材が集う場にするために，起業やICT，アートなど様々な分野でコンペティションを行うことも方法論の一つ
- ▶ 地域で活躍する人材を輩出するため，地元企業，教育機関等と連携し，地域の課題を先導して解決することで地域の発展に貢献する等，大学教育を通じて地域への愛着や誇りを形成することも必要

【今後について】

アンケート結果及び考察結果から，呉に活気を生むための方法として，大学等の誘致は有効であり，また，大学教育を通じて地域への愛着や誇りを形成することにより，地域で活躍する人材となり得ることから，地域企業や教育機関と連携し，大学誘致に向けた機運の醸成を図るとともに，地域のニーズを基にした誘致の可能性について検討する。

(2) 広島大学呉サテライトの更なる活用

【目的】

呉市と広島大学は、時代を先取る事業の創出や次代を切り拓く人材の育成に向けて、起業支援や社会人講座などの新たな取組を展開するとともに、更なる連携の深化を図るため、広島大学呉サテライトを設置した。

市民の方々や民間企業等に広島大学呉サテライトを活用していただき、地域が抱える課題等の解決に資する取組について検討した。

【ワーキンググループにおける主な意見】

- ▶ 広島大学は敷居が高く感じるが、広島大学呉サテライトであれば気軽に利用できるという印象を持ってもらうことが必要。
- ▶ その取組として、現在広島大学呉サテライトが窓口となり、様々な地域課題の相談等を広島大学へ繋いでいるが、さらにこの活動を促すため、気軽に利用できることを発信すべき。

【今後について】

申込みしやすい方法を検討し、広島大学呉サテライト（呉市ホームページ内）の最上部に相談窓口を設け、事業者用と市民・民間団体用にそれぞれ申し込みの入口を分け、わかりやすく、気軽に相談できるよう掲載した。

呉市ホームページアドレス : <https://www.city.kure.lg.jp/site/kure-satellite/>

掲載例) 呉市ホームページ/広島大学呉サテライトのページから、市民、民間団体等の方が申し込む場合

The image displays two screenshots of the Hiroshima University Kure Satellite website. The left screenshot shows the main page with a header '広島大学呉サテライト' and a section titled '地域の課題、研究や技術開発の課題で困っていませんか？'. Below this, there is a 'お問い合わせフォーム' (Contact Form) section with two options: '事業者の方' (Business) and '市民、民間団体等の方' (Citizens, etc.), both with links 'こちらから' (From here). The right screenshot shows the '【相談申込】広島大学呉サテライト' (Consultation Application) form. It includes a 'Q1: 相談内容' (Consultation Content) field, a 'Q2: 氏名・フリガナ (必須)' (Name) field, a 'Q3: ご住所 (必須)' (Address) field, a 'Q4: Eメールアドレス (必須)' (Email) field, and a 'Q5: 電話番号 (任意)' (Phone Number) field. An orange arrow points from the 'こちらから' link in the left screenshot to the 'お問い合わせフォーム' section in the right screenshot.